

“来るべき時に備えよ”

本来なら、5月の連休明けは授業参観やクラス懇談会から始まり、中・高では中間テストも行われます。いまだ、登園や登校が出来ないまま、楽しみにしていた遠足やキャンプ、各種クラブ活動などが延期や中止となっています。中・高生はもとより、幼稚園の園児やこどもレッスンの児童の皆さんをお迎えする準備はすでに整っていたのだけが残念でなりません。

“箕面も山並み 匂いつつ”と校歌にある箕面の木々は、例年のごとく新緑に輝いて美しい。もちろん、この豊中校舎にも春の息吹が満ちあふれています。校内には色鮮やかな美しい花々が園児や児童・生徒の皆さんをお迎えしようと所狭しと咲き誇っています。連休の半ば、正門警備の小林さんに「綺麗だね」と言ったら、“円形花壇やプランターの花はペチュニアでその他はペラルゴニウムという花です。”と教えてくれました。それは、赤やピンク、青、紫といった様々な色をつけて華やかに咲き誇っています。どのような状況にあっても花々の美しさに感動する心を忘れてはならないと改めて思ったものです。

休校となって2カ月、今もなお日々の学園生活の情景が目に見えなくて消えることはありません。「お早うございます」で始まるあの元気いっぱいの姿、まるで母親に連れられたカモのヒナにも似た園児の通園、新学年を迎え希望に胸をふくらませて登園・登校するいつもの風景は見ることができません。クラブ活動やあのチアの大きな声も聞こえて来ない。やはり、学校というところは目を輝かせて学び、キャーキャー・ワーワーと談笑しながら校内を闊歩するシーンが似合うところだとつくづく感じています。

ステイホームにある皆さんはどうしているのでしょうか？規則正しい生活が送れているのでしょうか。それぞれにつらい思いをしていることは想像には難くありませんが、なんのなんの皆さんの人生はこれからだとも思います。学校が再開される時のために、一人ひとりが新たな目標を設定して、来るべき時に備え着々と準備しなければと思っています。梅花女子大学ではすでにオンライン授業が始まっています。幼稚園や中学・高校でもオンラインによる発信を行うことになりました。初めての取組であります。軌道に乗るには時間がかかるだろうが、生徒・教職員が一丸となって知恵を絞り一つひとつ乗り越えてくれることを信じています。

“現在の苦しみは、将来わたしたちに表されるはずの栄光に比べると、取るに足りない私は思います。” —ローマの信徒への手紙 8 章 18 節—

今はつらくとも、やがてうなずくときがくるのです。

豊中キャンパス本部長 山田 正夫

